

電子書籍のつくりかた

1. 読み手の環境を考慮しよう（前提）

- せっかく本を作ってもファイルが開けないとか、開いてもレイアウトが崩れてしまうようでは困ります
- 「PDF」は汎用性が高いけど、スマートフォンのような小さい画面では読みづらいです
- 文章主体の本なら、小さい画面に自動で最適化してくれる「EPUB（いーぱぶ）」フォーマットがいいです（縦書きやルビにも対応しています）
- 画面の大きさや、文字の大きさ（読者の任意で変更できる）で、1画面に表示される文字数が可変するため「ページ数」の概念が存在しません。これを「リフロー型」と言います
- 利用者の多い電子書店で販売するには、EPUBでの制作が望ましいです
- ただし、図や表の多い複雑なレイアウトの本を作りたい場合は、PDFのほうが向いているかもしれません（今回のワークショップではやりません）
- サンプルの EPUB ファイルを開いてみましょう <https://goo.gl/SZEHWZ>
 - iPhone / iPad / Mac OS X なら最初から入っている「iBooks」アプリ
 - Android 5.0 以降なら最初から入っている「Google Play ブックス」アプリ
 - Windows は「Kinppy」アプリがオススメ <http://k-kinoppy.jp/for-windowsdt.html>



2. 無料で利用できる EPUB 制作ツール

- 「でんでんコンバーター」 <http://conv.denshochan.com/>
会員登録なしで利用でき、手軽なのは確かです。ただし、マークダウンの記述方法を覚える必要があります。プログラミング言語に慣れ親しんでいる人向け。販売には対応していないため、自分で他の電子書店に登録する必要があります
- 「Romancer」 <https://romancer.voyager.co.jp/>
要会員登録。Word ファイル（docx）をそのまま EPUB に変換できます。図形描写機能やコメントなど、EPUB への変換に対応していない Word の機能があることを理解しておく必要があります。販売には有料オプションで対応しています
- 「BCKKS」 <https://bccks.jp/> ※今回のワークショップで利用
要会員登録。ウェブブラウザからブログ感覚で本が作れる専用エディタ。紙本・データ本・EPUB に対応しています。作った本をそのまま販売できます（販売手数料 30%）。他の電子書店への配信もオプションで対応しています（これは有料）

3. 「BCCKS」の使い方

- 推奨環境は Google Chrome です <https://www.google.co.jp/chrome/browser/desktop/>
- まず [会員登録] しましょう (必要なのはメールアドレスとパスワードだけです)
- 本を出版している人が何者なのかを第三者に対し伝えるため、本を出す前に [書齋] の [設定] からユーザー名や自己紹介文などを設定しておきましょう (奥付の後ろに表示)
例: <https://bccks.jp/bcck/148230>
- フォーマットは [書籍] で、横組か縦組かは自由に (縦組は文字の向きに考慮する必要があるので難易度が高いです)、判型は紙本用なので EPUB 制作時には気にしなくてもいいです
- テキストは [見出し panel] または [本文 panel] に入力します
- 1 パネルあたり 1 万 5000 文字程度が目安です。また、フリープランでは 1 エントリ (記事) あたり 32 パネル、本全体で 320 パネルが限界です
- 文字寄せは上下 (縦組) 左右 (横組) 中央揃えに対応しています。見出しの大きさは LMS の 3 段階。本文は字下げや引用表示、強調弱調、ルビ、本の中や外へのリンクに対応しています
- 行頭の字下げは全角スペースを使いましょう。リストや表組みは非対応です。禁則処理はビューアが自動で行います (改行に注意)
- 文章の構造を章・節・項・条とすると、章をエントリ、節を見出し L、項を見出し M、条を見出し S に設定するといいいでしょう。段組ページは EPUB では無視されます
- 目次エントリは、視覚目次になるので設定したほうがいいです
- [余白 panel] は、EPUB では [改頁] だけ効きます
- URL は自動でリンクになります (ただし日本語 URL には非対応)。行頭から表記すると、EPUB での見込みがよくなります
- 写真やイラストは [画像 panel] で追加します。PNG または JPG が利用できます。見込みの大きさは 5 段階+アクセントが選択できますが、小さい画面だとあまり違いがわからないかもしれません
- 画像サイズは 5MB 未満。大きさは iPhone 基準で最低でも 640×960px、高解像度ディスプレイに対応するには 3840×2400px で、解像度は 300dpi が推奨です
- 画像のキャプションとクレジットは画像の次に配置されるため、とくに縦組では画像と泣き別れになる可能性が高いです。また、EPUB の仕様により、縦組の画像下と、横組の画像横にはテキストが配置できません。見開きも非対応です
- エントリまたは本全体をプレビューできます。プルダウンから EPUB リフローを選択しましょう
- [ジャケットを編集] から、表紙と裏表紙が作れます。背表紙は EPUB には反映されません
- [本の設定] で、本の説明 (非常に重要) などを入力し、[EPUB 設定] で [EPUB 目次] にチェックを入れておきましょう (目次エントリから自動生成されます)
- 本の [発行] 処理は、非公開のままできます。タチヨミ頁数は発行時に変更できます (初期状態は 7 見開き)。発行時には [EPUB 設定] で [ストア配本用 EPUB 発行] にチェックを入れておきましょう
- EPUB は念のため実機でもチェックしましょう

電子書籍のひろめかた

4. 「BCCKS」を利用したひろめかた

- 本の「発行」処理をした後、書齋の「公開販売」から販売価格が設定できます（初期設定は無料）
「BCCKS 公開」に設定する前に、いくらで頒布するかを決めきましょう（0円、200円～3万円）
- JavaScriptに対応しているウェブサイトなら「読める widget ブログパーツ」が利用できます
- 複数の本を発行したら、「書店」を作ってみるのもいいでしょう。まとめ買いにも対応しています
例：<https://bccks.jp/store/165927>

5. 無料で告知できるサービス

- 本の公開ページ URL を、メールや LINE などでもらいたい相手に送ってみましょう
- Twitter や Facebook などの SNS も活用しましょう。ただし届く範囲はフォロワー数に比例するのと、あまり頻繁に宣伝活動をするとうざられてしまう（フォロワー数が減る）可能性があります
- EPUB を Twitter のタイムラインで表示できる「EPUB to Twitter（無料）」<https://e2t.hon.jp/>
- EPUB をブラウザで表示できる「BiB/i（ビビ）」<http://bibi.epub.link/>

6. 他の電子書店を利用して販売

- 「BCCKS」のストア配本サービスは選択肢の1つです（有料・1点あたり540円）
- 「BCCKS」で作成した EPUB の権利は作成者にあるので、自由に利用できます
- 個人でも登録可能な電子書店は複数存在し、ユーザー層が異なります
 - 「Kindle ストア（Kindle ダイレクト・パブリッシング）」<https://kdp.amazon.co.jp/>
 - 「楽天 Kobo（楽天 Kobo ライティングライフ）」<https://rakutenkwl.kobobooks.com/>
 - 「BOOK☆WALKER（BW インディーズ）」<https://author.bookwalker.jp/>
 - 「iBooks Store（iTunes Connect）」<https://itunesconnect.apple.com/> ※要 Mac
 - 売値を読者が決めるサービス「言い値書店」<https://iineshoten.hon.jp/>



7. ランディングページを用意しよう

- 複数の電子書店で販売する場合、どこで買うかを決めるの読者なので、読者が任意に選べるページを用意しておくのが親切です。告知をするときも、そのページの URL だけを伝えれば済みます
例：<http://www.wildhawkfield.com/2017/01/publishing-news-2016.html>
- ランディングページには、本の紹介文、目次、書誌情報、サンプル、第三者の感想文など、その本に関わるさまざまな情報を集約しておくといいいでしょう
- Tumblr テーマを利用した「でんでんランディングページ」<http://lp.denshochan.com/>

8. ある程度コストをかけてもいいなら……

- 表紙は本の顔。デザインの良し悪しで売れ行きが大きく変わります。テンプレートのままや、素人のデザインは安っぽく見えます。プロのデザイナーにお金を払ってお願いするというのも手です
- タイトルや紹介文、キャッチコピーでも売れ行きは大きく変わります
- 本の内容がよければ、レビューを書いてもらえるかもしれません。好評価なレビューが多いと、販売促進に繋がります（ただしヤラセはダメ）
- 献本サービス（有料）「KENPON」<https://kenpon.hon.jp/>
- Google AdWords、Twitter 広告、Facebook 広告なども利用できます
- アオシマ書店電書告知ページ <https://kokuchi.aoshimabooks.com/>

9. 実は最強、対面販売

- なんだかんだで、対面時にお勧めするのが最も効果的です
- すぐに勧められるよう、名刺サイズ/A6 くらいのフライヤー（チラシ）を用意しておきましょう
- ランディングページを作っておくと、そこへ誘導するだけで済むのでラクです。ただ、URL を手入力するのは面倒なので、QR コードを用意しておくといいいでしょう。無料で作成できます
<http://qr.quel.jp/>
- ダウンロードカード制作サービス「conca」<https://conca.cc/>